

公益財団法人痛風・尿酸財団

2025 年度 事業計画書

1. 基本方針

年末から年始にかけて、インフルエンザの流行が急激に拡大し、再度基本的な感染防止対策が必要になってくると同時に、様々な医療分野での臨床研究・基礎研究・新薬開発などの重要性が改めて認識されている。

痛風や高尿酸血症の発症機序や治療に関する我が国の研究は、原因発見・ガイドライン発表・創薬などいずれの分野でも世界をリードしているが、痛風の原因物質である尿酸についてはまだまだ未解決の事も多く、更なる研究が期待されている。

当財団は研究者への支援助成を中心に、一般医師などを対象とした診療研修や一般の方々への啓発活動を事業の 3 本柱とし、国民保健の向上へ寄与することを活動の基本理念としている。

一方で財団の事業を運営するための資金である製薬会社などの企業団体や個人からの寄付は減少傾向が続いている。その対策として 2023 年より港区の公益財団などを支援する制度（港区版ふるさと納税制度/団体応援寄付金）を活用した寄付金拡充への取り組みを行っている。2025 年度からは新たに、Yahoo ネット募金サイトからの寄付の募集も開始し、一般の寄付・贊助会費・港区版ふるさと納税制度などと並行して財団への支援をお願いする所存である。

2. 計画内容

(1) 研究助成

◇対象

痛風・尿酸・核酸代謝に関する研究でその研究成果が疾患及び病態の成因と治療・予防に有用な影響を与えると期待される臨床的或いは基礎的な研究課題を挙げる団体・共同研究グループ 及び個人を対象として広く応募を受け付ける。特に優れた研究業績や研究計画に対しては「痛風・尿酸財団賞」を授与する。

◇2025 年度受付期間：2025 年 9 月 1 日より同 10 月 31 日

◇助成金総額予定：500 万円

◇選考方法

専門分野などを考慮して理事会で選定した選考委員に理事長が委嘱し選考を行う。各選考委員は提出された応募資料の研究課題を予め採点し、その集計結果をもとに 12 月初旬の選考委員会に於いて審議を行い、助成対象者と個々の助成金額を決定する。

◇研究成果の検証

当該助成による研究成果検証のために、2027 年 4 月までに関係論文の提出を求める。

(2) 痛風・尿酸研修会

全国の医師や薬剤師などの医療関係者を対象とし痛風や尿酸についての研究成果に関する講演と診断や治療についての研修を行い、更に講師との質疑応答を通じて理解を深めることで診療普及に役立てることを目的としている。

2025年度は、9月7日（日）に日本教育会館において第36回痛風・尿酸研修会を開催する。後日講演内容を録画したオンデマンド配信による研修も予定している。詳細については6月頃までに決定し公表する予定

(3) 痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせでは医療機関の紹介依頼が最も多い。

「何科の医師の診療を受けたら良いか？」「専門の医師が診療に当たっている医療機関はどこか？」などの相談に対し、全国の約100の痛風協力医療機関を紹介している。しかし当財団の協力医療機関はまだまだ東京や大阪など大都市に集中しており、地域によっては要望に応えるには十分とはいはず研修会参加医師への呼びかけや関係者からの推薦などにより協力医療機関を増やすよう努めていく。

(4) ホームページによる啓発事業

「理事長通信」「痛風・尿酸ニュース」「医学の地平線」などのコラムにより、痛風・尿酸関係の最新情報を定期的に更新して医療関係者・患者・一般の方々への情報提供を行っている。今後もホームページの充実を通して痛風や尿酸の基礎知識から医療機関の紹介まで、医療関係者のみならず患者さんに役立つ情報の提供を心掛けていく。

(5) 小冊子・会報の発行

痛風や尿酸に関する情報を要約している小冊子への要望は多く、協力医療機関などを通じて希望する患者へ行き渡るように配布している。また、研究成果や最新医学情報などを掲載した会報を12月に作成し、賛助会員や協力医療機関など300近くの方々へ送付することで情報伝達を計っていく。

(6) 一般の方からの質問に対する対応

患者・家族を含む一般の方からの質問や問い合わせは引き続き多く、その内容は医療機関の紹介依頼から始まり食事や飲料に関する注意点や痛風の治療薬に関する事など多岐に亘る。各々の質問に対しては痛風協力医療機関の紹介や専門分野の医師の助言を伝えている。このような啓発助言活動は今後もきめ細かく対応していく所存である。

以上